

2021年度「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名： 韃衆(ふいごしゅう)

活動名： 空き家をハブとした多世代交流&先人の知恵を学ぶ！～大島の家づくり～

★ 団体紹介 (結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等)

結成時期

韃衆は、2018年7月に結成しました。災害発生という有事に出会ったメンバーでしたが、平時から地域に根差した活動をしたいという気持ちがまとまりました。

構成メンバー

韃衆は総勢18人で活動しています。広島市内で働く社会人が中心です。

活動の方針

若者の中には、「社会のために何かしたい」と思っているけれども行動に移せずにいる人達があります。韃衆は、そんな若者の心にある「何かしたい」という小さな火へ、仲間として一緒に活動をして「韃」のように風を送ることでその火を大きくし、地域社会のために共に行動を起こせるきっかけを共有したいという気持ちを込めて結成しました。

活動の目的

安芸太田町筒賀地区の古民家「大島の家」(大島は屋号。現在は空き家)と、同町にある井仁地区の棚田の2つを拠点にして、多世代交流の場を作っています。活動の主な目的は3点あります。

- ①空き家を若者の活動のハブに変え、住民と交流しながら地域を盛り上げていくこと
- ②先人の知恵から学び、そのアイデアや技術を継承していくこと
- ③若者独自の発想力を大切にし、創作しながら実現させること

「大島の家」にはかつて使われていた古い農機具や五右衛門風呂など、若者の知らない「先人の知恵」がたくさんあります。本活動では、ただ知って終わるだけではなく、時代背景や歴史もあわせて学び、さらには知識を応用していけるような人材育成を目指していきたくて考えています。

「井仁の棚田」は日本の棚田100選に選ばれるほど魅力あふれる棚田です。しかし管理者の高齢化や過疎化が進み、地域課題も抱えています。私たち若者が楽しみながら盛り上げ、魅力を発信していきます。

★ 活動内容（実施日、場所、目的、内容、参加人数等）

■2021 年春から夏にかけて、大島ハウスの交流カフェスペースに屋根をかける作業をおこないました。延べ 30 人程度の参加があり、子どもたちも安心して楽しめるように地域の職人などプロの方の指導のもと、気を付けながら作業をしました。



↑乾燥させた木の皮を剥ぐ作業の様子



↑柱を立てた穴に、セメントを流し込む様子



↑屋根の柱を組む様子



↑波板をかけて完成する直前

■井仁の棚田では、地域の方から展望スペースづくりの要望をいただき、地域の方や広島市内の参加者とともに場所の開拓と雑草の処理等の作業をおこないました。延べ 10 名程度の参加がありました。



↑展望スペースの道整備をしている様子



↑カフェ「イニミニマニモ」でミーティング

■2021 年秋～冬は、大島ハウスの焚火スペースの安全性確保のため、地面にレンガを敷きました。延べ10名程度の参加があり、地域の方の指導を頂きながら丁寧に作りました。



↑レンガを並べている様子



↑真ん中が焚火スペースとなっています。

■その他、新型コロナウイルスの状況が落ち着いているときには、炊飯をして交流会をおこないました。広島市内からの参加者もあり、メンバー間での活動の方向性を話し合う良い時間が持てました。



★ 実施に伴う効果（どのような社会貢献ができたか。自らの成長は。）

大畠ハウスでの作業には、筒賀地域の方も参加していただきました。また、変わりつつある大畠ハウスを見た近隣の方からも、雪を心配する助言や、完成の際のお披露目イベントの提案など様々な声をいただくことができ、地道に若者が集まっていることが地域に少しずつ前向きな影響になっていると感じています。

井仁の棚田では、地域の自治会の人から展望台スペースづくりという具体的な提案をいただきました。一緒に作業をする中で、井仁地区を盛り上げたいという思いを対話で共感できています。

2021年の広島市内の参加者の多くが、まずは安芸太田町の空気の美味しさに感動し、畑作業や土木作業など初めて体験する野外活動に目を輝かせていました。普段は家と職場の往復に不安・不満を感じる若者が、休日に安芸太田町に集まることで楽しい時間や先人の知恵を学ぶ刺激を共有し合うことができたことが一定の成果になっていると感じています。

また、屋根かけ作業では専門の職業の方に来ていただき、作業の安全性や、制作のクオリティの管理をしていただけました。若者だけで不慣れな作業をするのではなく、生業としている人のプロの仕事を見ることができ、ひとつの職業体験のような学びを得ることができました。偶然、作業の噂を聞いた大畠ハウスの近隣住民の方も手伝いにきてくださり、柱の地盤を固めるセメントづくりなどを教えていただけました。自然と地域交流につながっている実感が持っています。

当団体の目指している「地域交流・多世代交流」としてはコロナ禍の影響で大々的なイベントとして参加者募集をできませんでしたが、少人数を誘って作業行程で交流することができました。

★ 苦労した点、今後の課題、発展の方向性など

コロナ禍だったため大畠ハウスでの活動を大々的なイベント化できなかったことや、井仁の棚田での農業体験やお手伝い等もリスク管理で中止になるものが多かったので、予定していた活動に支障がありました。2022年もコロナ禍であることに変わりないかもしれませんが、当団体の活動は現地で作業することが前提になりますので、少人数でも実施し、少しずつでも大畠ハウスの拠点完成に向けて前進させたいと考えています。

今後の方向性としては、大畠ハウスの屋内整備をし、宿泊可能な状態に持っていきたいと思っています。そして郷土料理の持ち寄りや防災を学ぶ会、手仕事を学ぶ会など様々なイベント開催に向けて準備をしたいと考えています。

井仁地区は広島市内の建築家などに依頼しながら展望スペースの整備をおこないます。魅力発信の仕掛けづくりを進め、キャンプスペースの開拓など大々的な作業展開へ向けて地域の方々と話し合いを続けます。

★ 若者×ツナグバへの提言（改善につながるヒント、要望）

助成団体 4 団体がコラボして、10月に井仁地区でオフラインイベントを開催する予定でした。コロナの影響で中止になってしまいましたが、イベントの開催準備では井仁の方々と話し合いの場を持ち、地域の方にも期待をしてもらっていました。ぜひ今後も多団体共同イベント開催のチャンスがありましたら当団体へお声かけいただけますと幸いです。

この度は助成していただきまして誠にありがとうございました。